第3回 糸魚川市駅北復興まちづくり計画検討委員会の開催について

- 1 日 時 平成29年5月11日(木) 10時30分から12時40分
- 2 会場 ヒスイ王国館2階ホール
- 3 委員からの主な意見

(駐車場について)

- ・ 車社会への対応から500台規模の駐車場が必要ではないか。
- ・駐車場だけで人は集まらない。個店等の仕掛けを考える必要がある。
- ・将来的に規模が過大となったとき用途を変えられる仕組みがあった方が良い。
- ・大規模な駐車場整備により地区のコミュニティが壊れてしまう懸念がある。

(誘客拡大について)

- ・首都圏やインバウンド(外国人)など新幹線利用にもターゲットを向けては。
- ・国道8号だけでなく国道148号からの流れも期待できる。
- ・交通の結節点であり広域的な誘客の視点も盛り込んではどうか。

(住み続けられるまち)

- ・高齢者向けの記述が多く若者向けの記述をもっと加えてほしい。
- ・若者と高齢者が一体となったコミュニティの形成がのぞましい。
- ・外からの集客も大事だが、定住促進を目指してほしい。にぎわいにも繋がる。
- ・大町区、新七区は被災で区民が減少しており、行政区見直しの検討が必要。

(延焼遮断帯、雁木について)

- ・本町通りに面する建物を準耐火にすると内装などに制約がかかるのではないか。
- ・歴史的なまちなみ再生と不燃化を両立するチャレンジ的な取組であり評価。

(都市計画決定、地区計画、景観等)

- ・地区計画、景観協定など、住民が議論してルールを作っていくことが大切。
- ・酒造、割烹、防災拠点のデザイン、その周辺も含め全体としての一体感が必要。

(重点プロジェクト)

- ・市全体で住宅用火災警報器 100%設置に向けた取り組みをお願いしたい。
- ・消防のポンプ小屋(格納庫)を設置してほしいという声が多い。
- ・映像で火災の記憶を伝えることは、出来れば見たくないという被災者に配慮を。
- ・植樹のようにソフトな形で記憶を伝えていくのは良いことだと思う。

復興まちづくりの目標 (目指す姿) について

1 復興まちづくりの目標

復興まちづくりの目標(目指す姿)を共有するとともに、その実現 に向けた施策(アイデア)を検討するため、復興まちづくりカフェと 庁内委員会を開催してきました。



復興まちづくりカフェ

市民を対象に「目標の検討、アイデアの検討」 などを施策 (アイデア) を意味やイメージが 近いグループ同士で集約していく手法で検 討しました。



庁内委員会

復興まちづくりカフェの 意見整理や復興まちづく り計画検討事項を整理し ました。



復興まちづくりカフェで浮かび上がってきたキーワードやイメージをもとに、復興ま ちづくりの目指す姿を次のように考えます。

安全で安心なまち 火災や災害に強い都市基盤のもとで、過去からの教訓を学び、伝えることができる住民同士の強いつながりが形成され、笑顔で暮らせる安全で安心なまちを目指します。

安らぎと緑のあるまち 中心市街地としてのにぎわいや防災面での効果に加え、子育て世代や高齢者などの多世代が安らげる場として、緑のある快適なまちを目指します。

歴史の風情が香るまち 雁木や景観に配慮した調和と統一感のあるまちなみに、街道沿いの風情や 生活の営みに根ざした歴史と文化の香りが漂うまちを目指します。

歩きやすいまち 歩行者にやさしい生活道路と主要幹線道路との機能分担を図りながら、人々が笑顔で行き交う、歩きやすいまちを目指します。

住んでよし 訪れてよしのまち 安心して心豊かに暮らせるコミュニティとともに、魅力的で個性 あふれる商店街のにぎわいがあるような「住んでよし、訪れてよし」のまちを目指します。



これらの姿を共有し、それぞれの立場で行うべきことを明確にしつつ主体的に行動するための復興まちづくりの目標を次のとおり掲げます。

カタイ絆で よみがえる 笑顔の街道 糸魚川

糸魚川市で産出される国石ヒスイのようにカタイ絆で力を合わせて大火から復興し、被災者の笑顔とまちのにぎわいをよみがえらせるとともに、歴史ある街道沿いの街なみに人々が集い笑顔で行き交う、歩きたくなるまちの姿をあらわしています。

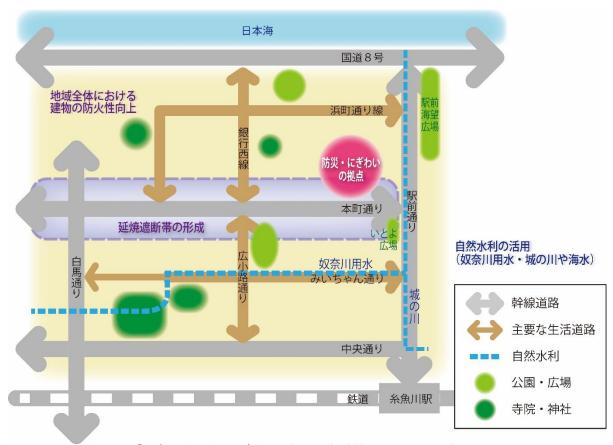
2 復興まちづくりの3つの方針と将来イメージ

復興まちづくりの目標「カタイ絆で よみがえる 笑顔の街道 糸魚川」を達成するため、 3つの方針を掲げ、復興まちづくりを推進します。

方針①災害に強いまち

「大火を二度と繰り返さない」災害に強い安全な市街地再生に向け、道路の拡幅や防災公園の整備、建築物の不燃化などを進めるとともに、消防水利を含む消防基盤の拡充・整備を図ります。

また、常備消防や消防団体制の強化や自主防災組織の充実などをあわせて行うことで、総合的に地域の防災力を高めていきます。



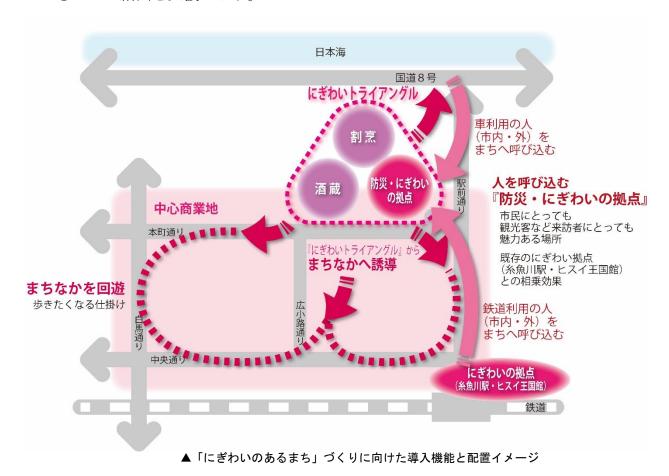
▲「災害に強いまち」づくりに向けた導入機能と配置イメージ

- ・奴奈川用水や都市排水路(城の川)、海水などの自然水利を活用します。
- ・市道の拡幅により災害時に緊急車両が円滑に通行できる道路網を形成します。
- 防災機能を有する公園や広場などを新たに整備します。
- ・本町通り沿いは延焼遮断帯として機能するよう、建物の不燃化を促進します。
- ・地域全体でも準防火地域に適合する建て替えを促進し防火性を向上させます。
- ・大火の記憶を次世代につなぐ「防災・にぎわいの拠点」を整備します。

方針② にぎわいのあるまち

人々が集い憩う中心市街地としてのにぎわいと活力を創出するために、事業再建や起業・創業の支援、防災・にぎわい拠点施設の整備などを進めるとともに、 雁木の再生など糸魚川らしいまちなみ景観の形成を図ります。

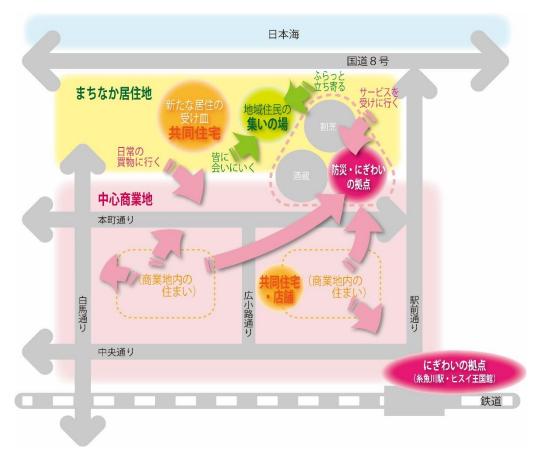
また、商工団体や商店街によるイベントの継続的な開催など民間主体によるに ぎわいの創出を支援します。



- ・市民や来訪者が集まる「防災・にぎわいの拠点」を整備します。
- ・歴史ある酒蔵や割烹の再建を支援しにぎわいのトライアングルを形成します。
- ・鉄道利用者と車利用者の双方をまちへ呼び込みます。
- ・ヒスイ王国館などの既存駐車場を補完する駐車場をまちなかに整備します。
- ・主要な幹線道路以外は、歩行者優先の生活道路として位置付けます。
- ・道路の美装化や歩いて楽しめる仕掛けにより快適な歩行空間をつくります。
- ・雁木など糸魚川らしいまちなみや魅力的で個性あふれる商店街づくりにより、 にぎわいのトライアングルからの回遊を促します。

方針③ **住み続けられるまち**

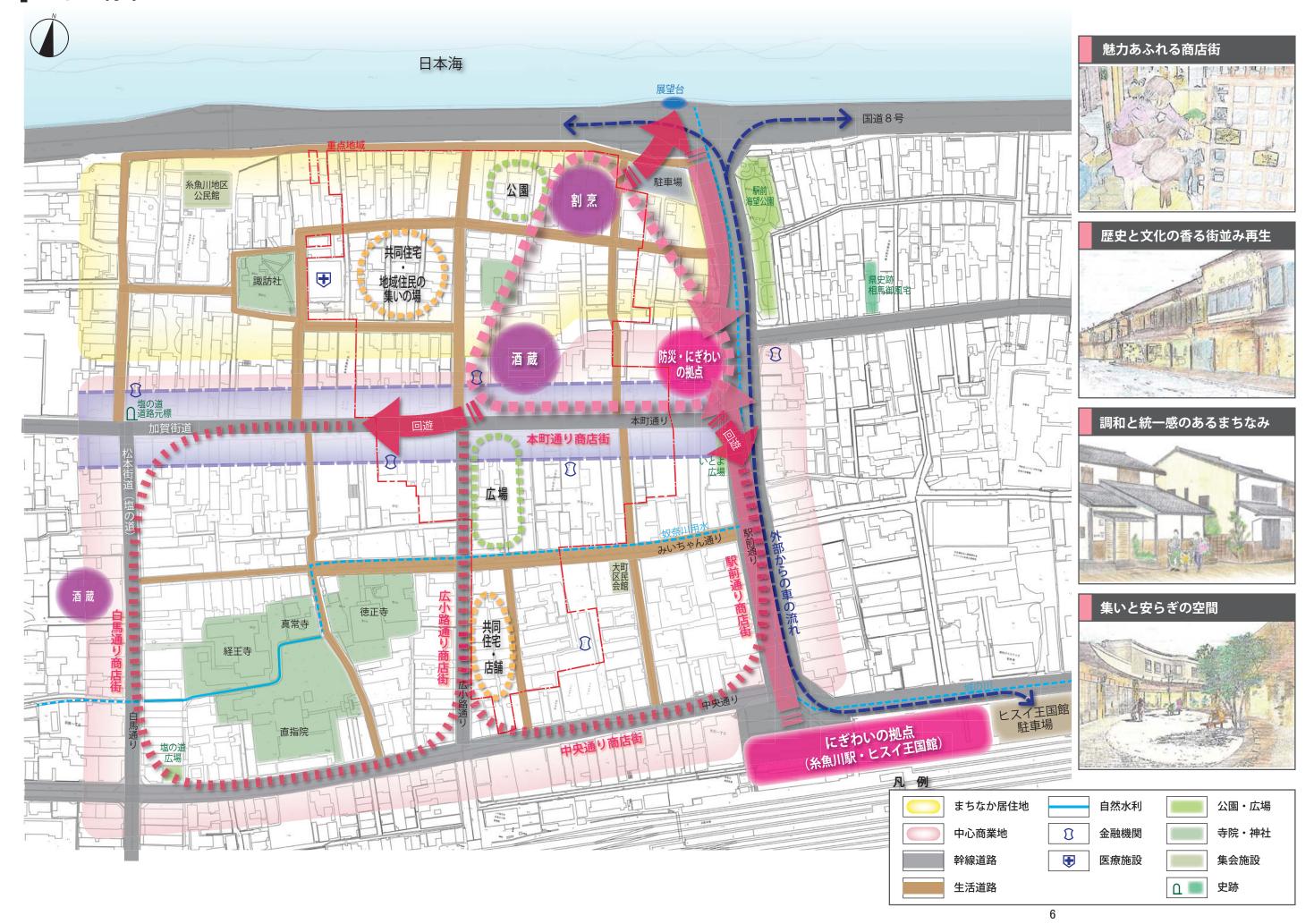
被災前の人口規模を回復し、将来にわたり地域の活力を維持するため、多様な住宅の供給や公園等の居住環境の整備を進めるとともに、高齢者サービスの充実や住民による地域活動の支援等を行うことにより、多世代が安心して住み続けられる便利で暮らしやすいまちを目指します。



▲「住み続けられるまち」づくりに向けた導入機能と配置イメージ

- ・再建を断念された被災者や、新たな居住者を受け入れるための共同住宅の整備を推進します。
- ・不整形な敷地や小規模敷地が集中する場所は、敷地の再編を進めます。
- ・地域住民の集いの場として「防災・にぎわいの拠点」や公園・広場を整備します。
- ・日常生活に必要な買い物ができる店舗、子育てや高齢者向けサービス機能な どの導入を促進します。

▮まちの将来イメージ



重点プロジェクトについて

重点プロジェクトは、復興まちづくりにおける目標の実現に向けて、3つの方針でとに重点的かつ優先的に取り組むべき施策やそれぞれの方針に共通する施策をまとめたものです。

復興まちづくり計画では、6つの重点プロジェクトを設定し、施策を展開して いきます。

プロジェクト名	災害に強い	にぎわい のある	住み続け られる
①:大火に負けない消防力の強化プロジェクト	*		
②: 大火を防ぐまちづくりプロジェクト	*		*
③:糸魚川らしいまちなみ再生プロジェクト	*	*	
④:にぎわいのあるまちづくりプロジェクト		*	
⑤:暮らしを支えるまちづくりプロジェクト			*
⑥:大火の記憶を次世代につなぐプロジェクト	*	*	*

【各プロジェクトの位置づけ】

災害に強いまち

①大火に負けない 消防力の強化

③糸魚川らしい まちなみ再生

②大火を防ぐ まちづくり

⑥大火の記憶を 次世代につなぐ

④にぎわいの あるまちづくり ⑤暮らしを支える まちづくり

にぎわいのあるまち

住み続けられるまち

①:大火に負けない消防力の強化プロジェクト

目 的

被災地を含む密集市街地での延焼防止に向けた消防基盤の拡充・整 備とあわせ、消防体制の強化や自主防災組織など地域住民も含めた地 域防災力の向上により、総合的に消防力を強化します。

主な施策

- ・奴奈川用水や海水などの活用検討
- 消火栓、防火水槽の増強
- ・常備消防及び消防団の装備や体制の強化
- ・関係機関、団体との応援協定の締結
- ・防災意識の醸成



▲消防装備の強化



▲奴奈川用水の活用



▲公園下を活用した防火水槽の整備

実 施 主 体 住民、自治会、事業者、市

年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度
施策名	計画期	>	整備期		展開期
奴奈川用水や海水 などの活用検討	整備計画策定 \ ·整備 /	>	整備∙活用		
消火栓、防火水槽の 増強	整備計画策定 \ ·整備 /)	整備		
常備消防及び消防 団の装備や体制 の強化	装備の充実	体制6	D強化		
関係機関、団体との 応援協定の締結	協定網	結			
防災意識の醸成	出前講座等の実施				

②: 大火を防ぐまちづくりプロジェクト

本町通りを延焼遮断帯として機能させるとともに、地区全体の建築 目 物の不燃化を促進します。また、市道の拡幅や防災上有効な公園等の 整備などにより、延焼の拡大を防止し、他の災害にも強いまちをつく ります。

- 主 な 施 策 ・本町通りにおける延焼遮断帯の形成
 - ・建築物の不燃化に対する支援
 - ・市道の拡幅(延焼防止や緊急車両の通行)と敷地の再編
 - ・延焼を防止し住民の集いの場となる公園・広場の整備
 - ・防災公園の整備(マンホールトイレ、備蓄倉庫などを併設)



▲延焼遮断帯のイメージ



▲防災公園







実 施 主 体 住民、事業者、市

年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度
施策名	計画期		整備期		展開期
本町通りにおける 延焼遮断帯の形成		市計画決定 ~運用開始•建	築		
建築物の不燃化に 対する支援	制度内容 人	実施			
市道の拡幅と 敷地の再編	田地買収 工事				
延焼を防止し住民 の集いの場となる 公園・広場の整備	用地買収 ・設計 ンエ	事			
防災公園の整備	用地買収・設計 エ	:事			

③:糸魚川らしいまちなみ再生プロジェクト

歴史的街道であった本町通りにおいて、雁木を含むまちなみ景観や 目 酒蔵を含む魅力的な地域資源などを生かした、糸魚川らしいまちなみ 景観の再生を推進します。

- 主 な 施 策・雁木の再生に向けた支援
 - ・地場産材等を活用した復興モデル住宅の推奨
 - ・外装に統一感をもった住宅や店舗の建築への支援
 - 道路や歩道の美装化
 - ・無電柱化の推進



▲被災地近隣に残る雁木のまちなみ



▲無電柱化のイメージ (牧之通り:新潟県南魚沼市)

実 施 主 体 住民、事業者、市

年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度
施策名	計画期		整備期		展開期
雁木の再生に 向けた支援	ガイドライン等作成者1 ~都市計画手続	市計画決定 ~運用開始			
地場産材等を活用 した復興モデル 住宅の推奨	実力				
外観に統一感をも った住宅や店舗の 建築への支援	ガイドライン等作成 者の ~都市計画手続	市計画決定 ~運用開始			
道路や歩道の 美装化	設計〉工事				
無電柱化の推進	調査・設計	工事			

④:にぎわいのあるまちづくりプロジェクト

主な施策

- ・防災とにぎわいの拠点施設の整備 (大火の記憶を伝える防災メモリアル機能、子育てや福祉に関する相
 - 談窓口機能、教育相談や学習支援のための機能、移住に関する相談 窓口機能、外部人材を活用した中間支援機能などを検討)
- ・商店街等のにぎわい創出事業
- ・ビジネスチャレンジ支援事業の拡充
- ・観光協会と連携した防災等の視察ツアーの実施
- ・日本海を生かした長野県方面からの誘客強化



▲まちなかの にぎわいの広場のイメージ図



▲にぎわいの拠点施設の整備のイメージ (御殿堰:山形県山形市)

実 施 主 体 事業者、商店街、商工団体、市

29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度
計画期		整備期		展開期
機能の検討 運営事業者の検討	基本設計	┼・ 実施設計・エ	事∙拠点施設選	堂
	にぎわい創	出事業の実施		
拡充内容の 検討	支援될	事業の実施		
広域観光道	重携•大糸線利)	用促進•松本糸	魚川連絡道路	整備促進
	計画期 機能の検討 運営事業者の検討 拡充内容の 検討	計画期 機能の検討 運営事業者の検討 基本設言 にぎわい創 拡充内容の 検討 支援事 ツアー実施 旅行会社との調整	計画期 整備期 機能の検討 基本設計・実施設計・エ にぎわい創出事業の実施 拡充内容の 検討 支援事業の実施 がアー実施 旅行会社との調整	計画期 整備期 機能の検討 基本設計・実施設計・工事・拠点施設選 にぎわい創出事業の実施 拡充内容の 検討 支援事業の実施

⑤:暮らしを支えるまちづくりプロジェクト

幅広い世代が安心して生活できる住環境を提供するとともに、コミ 目 ュニティ豊かにいきいきと住み続けられるまちをつくります。

- 主 な 施 策 ・公営住宅の整備(福祉施設等の連携を検討)
 - ・復興まちづくりカフェの継続(地域づくりプランの策定を支援)
 - ・生活再建のための金融等の支援(借入への利子補給、固定資産税等 の負担軽減、住宅再建に対する支援)
 - 生活支援相談員の配置
 - ・健康づくりへの支援(医療介護費の一部助成、施設使用料の軽減)



▲ 1 階に福祉施設を併設した共同住宅 (富山県射水市 リアン放生津)



▲低層平屋建ての公営住宅

実 施 主 体 住民、事業者、市

年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度
施策名	計画期	•	整備期		展開期
公営住宅の整備		機能検討、	設計、工事、供	用開始	
復興まちづくり カフェの継続	実施				
生活再建のための	利子補給				
金融等の支援	住宅再建支援	ı	ı	ı	
生活支援相談員の 配置	相談員配	配置			
健康づくりへの支援	医療費助	成等			

⑥:大火の記憶を次世代につなぐプロジェクト

目 大火の記録を後世に伝えるために、防災・にぎわい拠点施設に防災 メモリアル機能を導入し、防災活動拠点や防災教育・啓発の場とする とともに、被災地を中心に大火の記憶を伝承するツール(仕掛け)づく りを推進します。

- 主 な 施 策 ・防災とにぎわいの拠点施設の整備(再掲)
 - ・復興まちづくり版マンホール蓋への更新
 - ・映像等を用いた防災教育の推進
 - ・防火と大火の記憶を受け継ぐ植樹の促進



▲災害シアター(イメージ)



▲ちびっこ消防士(イメージ)



▲火災シミュレーター(横浜市民防災センター)

実 施 主 体 | 住民、自治会、市

年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度
施策名	計画期	>	整備期		展開期
復興まちづくり版 マンホール蓋への 更新	7	゛サ゛イン検討 <i>┃</i>) 蓋取替えエ	:事	
映像等を用いた 防災教育の推進	情報整理			実施	
防火と大火の記憶を 受け継ぐ植樹の促進	樹種検討等		実施•支援		

▮ 重点プロジェクト施策箇所図 ① 大火に負けない消防力の強化プロジェクト ─ 奴奈川用水や海水等の活用検討 日本海 □ 消火栓、防火水槽の増強 □ 常備消防及び消防団の装備や体制の強化 □ 関係機関、団体との応援協定の締結 展望台 □ 防災意識の醸成 国道8号 ② 大火を防ぐまちづくりプロジェクト ─ 本町通りにおける延焼遮断帯の形成 駐車場 □ 建築物の不燃化に対する支援 糸魚川地区 公民館 海望公園 ■ 市道の拡幅と敷地の再編 █ 延焼を防止し住民の集いの場となる公園・広場の整備 ■ 防災公園の整備 \bigoplus ③ 糸魚川らしいまちなみ再生プロジェクト 諏訪社 → 雁木の再生に向けた支援 □ 地場産材等を活用した復興モデル住宅の推奨 ➡ 外装に統一感をもった住宅や店舗の建築への支援 B 防災・にぎわい □ 道路や歩道の美装化 Ω の拠点 → 無電柱化の推進 塩の道 道路元標 4 にぎわいのあるまちづくりプロジェクト 本町通り 加賀街道 本町通り商店街 ── 防災とにぎわいの拠点施設の整備 □ 商店街等のにぎわい創出事業 □ ビジネスチャレンジ支援事業の拡充 □ 観光協会と連携した防災等の視察ツアーの実施 □ 日本海を生かした長野県方面からの誘客強化 みいちゃん通り ⑤ 暮らしを支えるまちづくりプロジェクト - 公営住宅の整備 □ 復興まちづくりカフェの継続 徳正寺 期住宅 真常寺 □ 生活再建のための金融等の支援 0 □ 生活支援相談員の配置 経王寺 店舗 □ 健康づくりへの支援 ヒスイ王国館 駐車場 にぎわいの拠点 (糸魚川駅・ヒスイ王国館) 6 大火の記憶を次世代につなぐプロジェクト 公園・広場 市道の拡幅(計画路線) 幹線道路・生活道路 敷地の再編(検討エリア) 寺院・神社 自然水利 ├── 防災とにぎわいの拠点施設の整備(再掲) □ 復興まちづくり版マンホール蓋への更新 金融機関 集会施設 B □ 映像等を用いた防災教育の推進 □ 史跡 \blacksquare 医療施設 □ 防火と大火の記憶を受け継ぐ植樹の促進